

第7回 木曾三川下流域自然再生検討会

【持続性を考慮した自然再生のあり方について】

平成30年2月27日

国土交通省 木曾川下流河川事務所

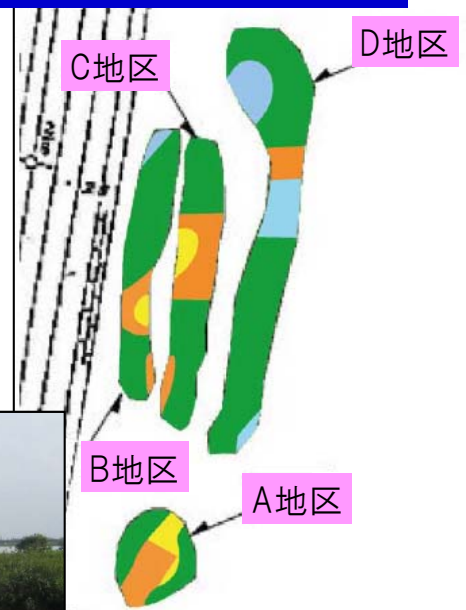
持続性を考慮した自然再生のあり方についての検討の必要性

- 再生した自然環境については、その状態を持続していく必要があるが、自然環境には不確実性があり、必ずしも想定したとおりの結果とはならない。
- 従前より実施してきたヨシ原の再生箇所においても、生息場として機能しつつあると考えられるものの、比高差の拡大等により、樹木等の進入が見られる事例も見受けられる。
- このような状況の中、平成29年6月、実践・現場視点、持続性・将来性を視点とした提言「持続性ある実践的な多自然川づくりに向けて」(河川法改正20年 多自然川づくり推進委員会)が取りまとめられ、今後はこの提言を踏まえ、河川環境の整備と保全のため「持続性ある実践的な多自然川づくり」を推進していくこととなる。
- 今回、変更に向けた検討を進める河川整備計画及び自然再生計画についても、提言を踏まえ、持続性を考慮した自然再生のあり方について取り入れていく必要がある。

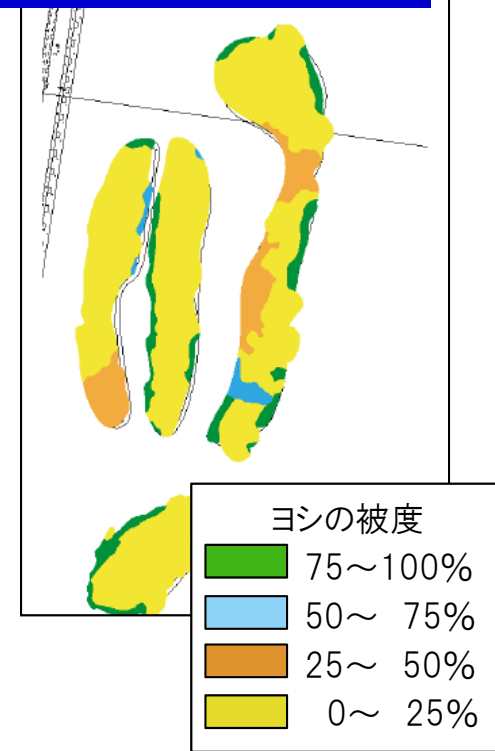
再生したヨシ原の状況（長良川右岸6.0k付近）



再生2年目（平成16年度）



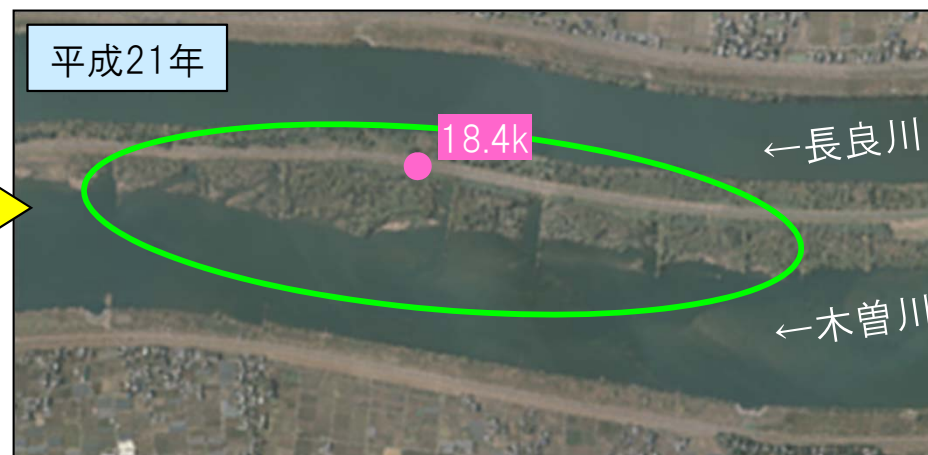
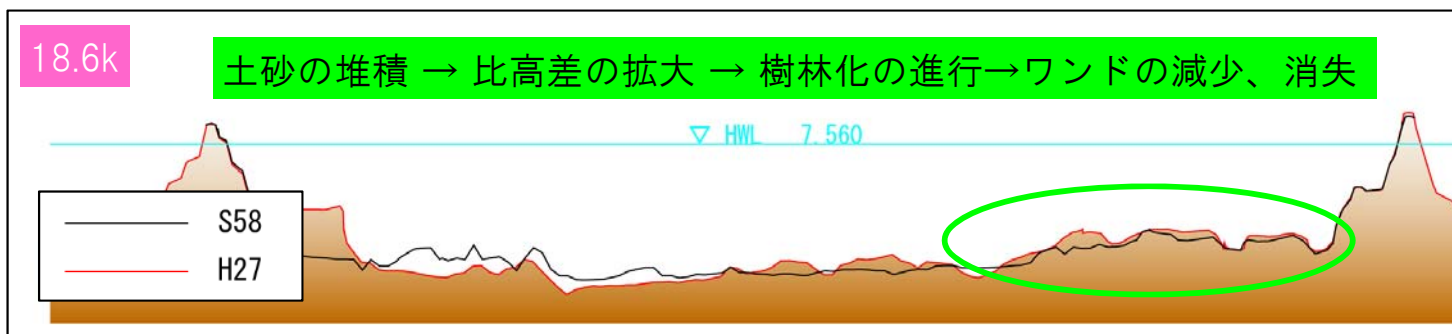
再生14年目（平成28年度）



方針①自然の営力の活用

- 再生した自然環境は持続的なものにしなければならないが、不確実性があることから画一的な対策では持続性を確保できない。
- 自然再生事業として検討しているケレップ水制群間のワンド再生についても、ワンドが減少、消失してきた現状を踏まえると、再生後においても再度陸地化することが懸念される。
- 自然環境を持続可能なものとするために、自然再生事業は、管理の効率性を念頭に河川の各区間の特性に応じたさまざまな工夫を凝らす必要がある。
- そのため、自然の営力を活用することを第一に考えた自然再生方法について検討し、実践しながら、そこから得られた貴重な知見・経験を次の取り組みに活かしていくものとする。

ケレップ水制群間のワンドの減少、消失



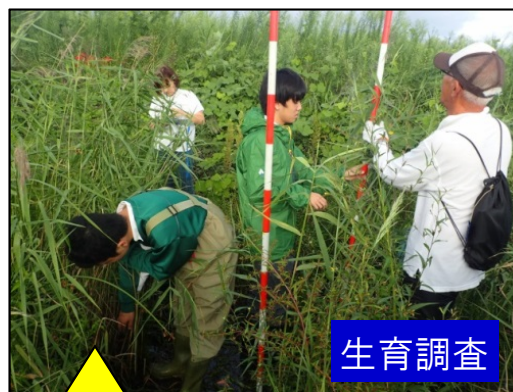
方針②地域連携の強化

- 河川環境については、日常管理における巡視や河川水辺の国勢調査等により現状把握を行っているところではあるが、このような河川管理者が行う管理行為の範疇のみでは、適宜変化する現状を十分に把握することは困難である。
- 再生した自然環境の将来に向けた持続性を確保していくためには、川と地域社会との関わりを深めていくことが重要となっている中、現在、木曾三川下流域では愛知黎明高等学校と協働し、ヨシ苗の移植に加え、モニタリングとして生育調査を実施し、自然再生事業の役割と効果について、より一層の普及・啓発を進めている。
- このような取り組みを推し進め、自然再生の実施とともに、調査から維持管理、モニタリングまでの一連の取り組み過程に市民等が積極的に関わることができる環境を整えることで、持続可能なかわづくりを行っていくものとする。

愛知黎明高等学校との協働事例（ヨシ原再生）



自然再生事業の説明



生育調査



ヨシ苗採取



ヨシ苗移植

冬のエコフェア2017
四日市大学3号館
12月16日(土) 10:00~16:30
入場無料 申込不要

【第1部 10:00~12:30】
高校生の部(活動発表会)
環境に関する実践・研究
10:00~ オープニング
10:10~ 高校生発表
11:40~ 質疑応答
12:10~ クロージング

【第2部 14:00~16:30】
一般の部(フォーラム)
テーマ:「食と環境」
14:00~ オープニング
14:10~ 研究・実践発表
15:40~ ディスカッション
16:25~ クロージング

【お問合せ先】 四日市大学社会連携センター
TEL:059-340-1327 Email:renkei@gyu.ac.jp

主催:冬のエコフェア実行委員会(三重県環境学習情報センター・三重県産産・四日市大学)
後援:四日市市・三重県教育委員会 四日市大学
協力:公益財団法人国際環境移転センター(IKETT)

四日市大学で
開催された
シンポジウムで
取り組みを発表
(H29.12.16)

